



熊本城内の一角「緑のオアシス」、 監物台樹木園の紹介

九州森林管理局 技術普及課

3年ぶりの開園！

監物台樹木園は、特別史跡である熊本城の北側の一角に位置しており、緑化愛林思想の普及と一般市民のレクリエーションの場とすることを目的に、昭和27年に一般公開されました。約2・6haの広々とした園内には四季を通じて緑があふれ、熊本市の方々の憩いの場になっているとともに、熊本城と合わせた観光スポットのひとつにも数えられています。

令和3年からは、園内にある「監物櫓」の熊本地震被害の復旧工事のために一時休園していましたが、令和6年4月に3年ぶりに開園し、ちょうど1年が経過したところです。この記事では、監物台樹木園の見どころなどをご紹介します。

監物台樹木園ができるまで

監物台樹木園は、緑化の機運醸成やレクリエーションの場の提供を目的として、昭和27年に開園しました。現在の監物台樹木園の敷地は、戦前まで陸軍省所管でしたが、戦後、大蔵省に引き継がれ、昭和24年に

熊本営林局(当時)に管理の主体が移った後は、郷土樹種である常緑広葉樹を中心に、九州各地から樹木を集めて植栽しました。監物台という名称は、熊本城主細川家の守老を務めた「長岡監物」が熊本城の北の守



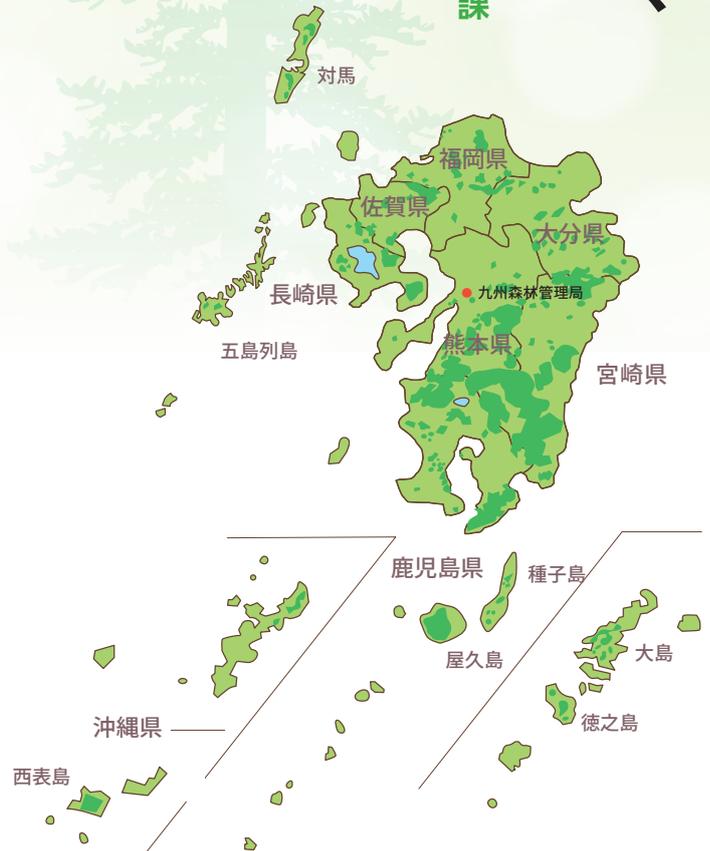
管内概要

- 所在地** 熊本県熊本市西区京町本丁2番7号
- 区域面積** 419万ha
うち森林面積 277万ha
うち国有林面積 53万ha
- 関係自治体** 8県(福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県)

九州森林管理局は、九州・沖縄8県に所在する森林の約2割(約53万ha)に相当する国有林の管理経営を担っています。

九州の国有林は、九州中央山地から雲仙、阿蘇、九重、霧島、桜島といった火山地帯、対馬や五島列島、屋久島、奄美大島、南西諸島といった離島まで、南北約1,200kmの広範囲に分かれており、多様な森林生態系を有しています。

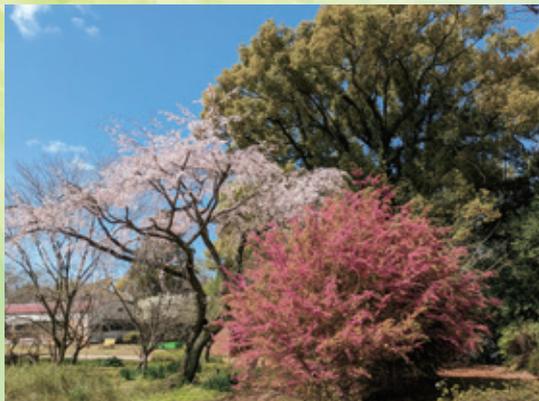
また、九州は温暖多雨な気候のため、スギやヒノキの生育に恵まれており、日田や小国、球磨、飫肥などの歴史的に有名な林業地が発展してきた地域でもあります。



りとして、この地を固めていたことに由来します。

見どころ

九州・沖縄の郷土樹種である常緑広葉樹を中心に、多種多様な樹木や植物が植栽されており、春はサクラやフジの花、秋はイチヨウの紅葉など、四季折々の樹木を楽しむことができます。



樹木園

また、園内のみどりの交流館には、九州の国有林に関連のある展示物や木製テーブルなどが設置されています。なかでも樹齢1000年を超える巨大屋久スギの円盤は、来館者の目を引きつけます。

ほかに、内大臣森林鉄道（熊本管林局 矢部管林署(当時)が設置した、総延長40kmあまりの九州屈指の森林鉄道）において、1960年代に入ってから導入された「野

村式ディーゼル機関車」が展示されています。森林鉄道の廃止と共に昭和43年12月に引返し、監物台樹木園には昭和48年頃より展示されています。

樹木園の北側に位置する「監物櫓」は、安政7年（1860年）に建築され、国指定



みどりの交流館屋久スギ



野村式ディーゼル機関車



監物櫓(熊本市により管理)

重要文化財に指定されています。細川家の時代には「長岡図書預り櫓」と呼ばれていました。敵の襲来に備えた「石落とし」や鉄砲を撃つための窓「狭間」などを有し、砦の役割を果たしていました。

緑のオアシスとして

監物台樹木園は、昭和27年の開園以降長きにわたり、熊本城内の一角「緑のオアシス」として親しまれてきました。約3年間の休園中においても、九州森林管理局では園内の草刈りや剪定作業を継続するとともに、隣接する県道への危険木や枯損木の処理など、再開園に向け準備を進めてきました。

た。

再開園の際には、「開園を待ち焦がれていたのうれしい」といった感想のほか、「こんな素敵な場所があることを知らなかった」という声もいただき、ゴールデンウィーク中は5,000名を超える来園者がありました。また、教職員の方に森林の機能などを伝えるイベント「森の塾」も開催し、学校での森林環境教育に役立ててもらおう取組も行っています。

樹木園では今年も花の季節を迎えます。熊本にお越しの際は、ぜひ監物台樹木園を訪れていただければと思います。



樹木園入口



樹木園内